2012年9月
コラム

おかだ　いと

2012/9/26 (**水**)

　秋分の日から、四日経った。空の雲は、移ろいやすく、いろいろな写真が撮影できる。小さな雲、大きな雲、はぐれ雲、いろいろな雲があり、見ていて飽きない。これからは夜が長くなり始める。夜空を見上げると、美しい月夜が見られるようになる。雲があっても風流だが、雲ひとつない澄んだ月夜も、月明かりが晃々としていて美しいものである。夜も冷え込んできているが、ふと夜空を見上げてみるのもいいだろう。好きな音楽を聴きながら、夜空を見上げる。最高に贅沢な時間だ。温かいお茶など飲みながらだとなおいい。夜空の見え方は、地方によって違う。都会には都会の、田舎には田舎の夜空が見える。人それぞれの感じ方も違うだろう。その感じ方を大切にしていきたいものだ。古人は自然の変化を身近に感じ、いろいろな言葉で表現してきた。現代人は、その言葉を忘れつつある。古人の書いた書物に触れてみて、日々の季節の移り変わりを感じてもいいだろう。

2012/9/27 (木)

　毎日の散歩を日課にするようになって、今日で三日目。いつもはあんみつ館まで歩いていたが、今日は近くの神社まで足を伸ばしてみた。先客がいた。狛犬に手を合わせている中年の女性である。その様子から、毎日来ているようだ。午前中の涼しい時間のため、気持ちがいい。太陽からの木洩れ日と雲のコントラストが美しく写真を撮った。そして、明日の内視鏡の検査が無事に終るようにお願いした。陽性反応が出た時は神仏の存在は信じないと思ったが、やはり祈ることで心が落ち着き、次への行動力への原動力になった。帰ってからツタヤに行き、ジャズのアルバムを五枚借りてきた。明日の待ち時間、心落ち着けるためだ。音楽はリラックスさせてくれる。初めて内視鏡の検査をするので、不安な気持ちでいっぱいだ。朝から夕方まで一日かかる。ひまつぶしのものは持っていくつもりだが、どうだろう。病室で待たせてもらえると楽なのだが。明日にはわかることだろう。

2012/9/29 (土)

台風が近づいてきている。子供の頃、台風といえば一大イベントだった。小学生の頃の思い出が二つある。一つ目は、台風の警報が出て、下校途中に、台風の目を見たことだ。吹き荒れた風が、ふと、止まり、空を見上げるとぽっかりと青空が見えた。何と美しい青空だろう。一生心に残っている。しばらくすると、再び暴風雨に戻った。もう一つの思い出は、祖母の家での停電である。祖母の家は旅館である。男湯に女従業員、いとこ、そして夏休みで遊びに来ていた姉と私。真っ暗な中、懐中電灯の光だけを頼りに入浴した。それまで停電を経験したことのない私にとっては、とてもわくわくした出来事であった。今、台風が近づいてきている。朝から台風に備え、危険な物を片付け、家の中に入れるなど準備をした。残念ながら、明日の娘の運動会は中止になったが、娘の心の中では明日の台風が心に残るだろう。既に被害の出ているところもあるが、充分な対策が必要だろう。

2012/9/30(日)

私はよく図書館を利用する。きっかけは、車で五分程でいける距離にあることと娘の付き合いで行かされるようになってからだ。最初はあまり図書館の本には興味がなく、主に購入してばかりしていたが、家の本を置く場所にも限界がある。いわゆる「断捨離」で蔵書を整理し、手放した。それから、図書館通いが始まった。田舎の図書館なので蔵書は少ないが、未知の世界がたくさんあった。本屋ではもう置いていないような古い本、発売されたばかりの本、そして何より無料で読めるのが利点だろう。再読も自由にできる。以前、どうしても読みたい本があり、リクエストしたらわざわざ県立図書館から借りてきてくれた。有難いことである。今は、インターネットと図書館が連動していて、本の予約や蔵書の確認などが家で出来るようになっている。最近は、二日に一冊のペースで本を読み、本の中の気に入ったフレーズを書き出し、有効利用している。図書館を利用し続けたい。